

温故知新 古きを尋ねて最先端へ

株式会社 東芝 磯子エンジニアリングセンター
原子力開発設計部 先端システム担当

花岡 敏成

「さて、困ったな。」原稿に向かってこぼれた素直な感想です。と言いますのも、ここで語るべき内容が抱負だからです。この抱負の何が厄介かと言いますと、などと多くを述べるより先ずは私の抱負を見ていただいた方が判りやすいかと思えます。百聞は一見にしかかず、ですね。ではあらためまして、私の抱負は、「一人前になること。そして仕事をこなし、いつかは“ひとかどの”と呼ばれるようになること。」です。

どうでしょうか。個人的には非の打ち所のない素晴らしい抱負だと思うのですが、控えめにみても何だかよくわかりません。このような曖昧な抱負になっているのには無論のこと理由があります。ここで言い訳に入る前に、「抱負を語る」の定石に習って簡単に私が普段携わっている仕事について紹介したいと思います。

さて、私の所属する東芝という会社は重電会社です。家電や半導体も扱っていますが、同じように社会インフラも扱っています。発電プラントをはじめとした電気関係なので、意外と身近なところで目立たず活躍しています。なお、仮に発見されても近くで見ようとは思わないでください。高圧大電流の機器が多いので甚だ危険です。もっとも電車の下に近づいたり、変電所に侵入してまで見たいと言う方は稀有だと思いますが。

それはさておき、私の仕事の話でした。簡単に言うと、大学や研究所からお金を貰って機材を納める仕事をしています。ただ課の中でいくつかのグループに分かれていまして、私が所属しているのは主に核融合関係を扱っているグループです。

核融合、あまり詳しくない人が名前だけ聞けば先進的なハイテク技術の塊でSFの世界に踏み込んでいるように聞こえますが、勿論そんなことはありません。要求がかなり厳しいだけで用いられている技法や材料、機材は既存のものの延長です。ですから製作上は甚だ困難ですが不可能ではありません。設計がきちっとしていれば。

そう、問題となるのは設計です。所属する課の主業

務がそれなのですが、設計が指し示す範囲が広すぎる気がします。半年ほど前に職場に配属された折（実は社会人一年生です。）、業務の内容を先輩に伺ったことがあります。そのときの答えが、「まあ、色々。」。当時は「何ですかそれは」と思いましたが、今から思い返すと納得できる答えです。私たちの仕事はある製品を納入するまでの青写真を描いてその通りに実行することです。ですから広く浅く、日程調整や予算の見積もりから製品の設計の整合性チェックや細かい解析まで、雑多な内容をこなさねばなりません。これは要するに、多種多様な能力を大雑把にかつ確実に習得することを要求されているようなものです。浅くてもかまわないとはいえ、多方面の知識を実用レベルで身につけるといのは難易度の高い要求だと思います。

これを鑑みれば、私の抱負の前半が「一人前になること」である理由がわかってもらえるのではないのでしょうか。

そして、この話には続きがあります。後10年以内に核融合の大きなプロジェクトがあるのです。それが国際熱核融合実験炉（ITER）の製作です。これはフランスのカダラッシュに7カ国が共同で核融合の実用化を目指す実験装置を作る計画です。その装置の製作に携わる可能性があるのです、私が。こんな大事が後に控えていると思えば、ITER計画に本格的に関わる前になんとしてもレベルアップしておかなければなりません。得意分野で「ひとかどと呼ばれる」程度になっていなければ、と気が気ではありません。

以上の言い訳から、私の抱負は「一人前になること。そして仕事をこなし、いつかは“ひとかどの”と呼ばれるようになること。」になるのです。

さて、間に合えばよいのですが。先はまだまだ遠そうです。

（原子力 平成18年卒 20年前期）